

2011 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告

劉 礪志

日本語能力試験実施委員会 担当理事

1. はじめに

2010 年よりスタートした、年に 2 回行う新日本語能力試験の実施が早くも 3 年目に入ったのである。ここ 2 年間の応募者数のみを並べ比べてみると、全体で 30 人の差しか出なかったという面白い数字であった。しかし、さかのぼって 10 年前の 2002 年から 2009 年までの応募者数のデータを振り返ってみると、2000 人弱へと年々増え続けてきたのと比べると、新日本語能力試験になったこの 2 年間の応募者数の変化は圧倒的少ないのである。少ないというより、むしろ心配させられるほどの数字である。年々増え続けてきた 2000 人弱という喜ばせる数字とは反対に、新日本語能力試験になった 2010 年から 2 年連続 5 千人近くの応募者数が激減するという現状に日本語教育関係者ならば誰一人ショックを受けない人はいなかろう。

応募者数はさまざまな要因によって常に変わるとはいえ、応募者数の多少はある面では日本語学習者の増減に反映している。香港における日本語教育の促進、発展及び普及のため、今後も香港日本語教育研究会に協力を賜る日本語教育機関の関係者各位とともに使命を果たしたい。

2. 2011 年度の実施に関するデータ

次は 2011 年度日本語能力試験の実施に関する報告である。

2.1 応募手段

日本語能力試験申込の受付は従来通り日本語講座と第一日語暨文化學校に実施してもらっている。マカオでは 99 年よりマカオ大学の協力により行われている。なお、事務所での申込の実施は 2005 年に事務所の設立後可能となったのである。同年、オンライン申込システムの構築ができ、オンラインによる申込が可能になった。ただし、試験会場は香港地区のみとなっている。

表 1 で分かるように、2005 年にオンライン申込が可能になって以来、それを利用する応募者が年々増え続け、反対にセンターでの申込は減りつつあることが分かった。これはインターネットの普及とともに出了変化だと考えられる。一方、応募者情報をより能率的に処理できるため、オンライン申込システムをより強化すべきであることが今後の課題である。

表 1 2005 年～2011 年 応募手段の推移（香港・マカオ）

年度	ウェブ申込 (香港会場のみ)		センター申込 (香港会場のみ)		応募者数		
	応募者数	比率 (%)	応募者数	比率 (%)	マカオ会場	香港会場	総人数
05 年度	5,653	50.2	5,606	49.8	292	11,259	11,551
06 年度	6,405	47.9	6,967	52.1	339	13,372	13,711
07 年度	7,853	52.0	7,255	48.0	438	15,108	15,546
08 年度	9,282	54.7	7,692	45.3	587	16,974	17,561
09 年度第 1 回	2,575	67.5	1,238	32.5	0	3,813	3,813
09 年度第 2 回	12,910	78.9	3,452	21.1	462	16,362	16,824
10 年度第 1 回	2,836	82.0	623	18.0	0	3,459	3,459
10 年度第 2 回	8,903	82.4	1,902	17.6	295	10,805	11,100
11 年度第 1 回	5,037	83.4	1,000	16.6	0	6,037	6,037
11 年度第 2 回	6,800	82.3	1,467	17.7	285	8,267	8,552

2.2 受験料の支払い

盗難など望ましくない事件をできるだけ避けたいということや、能率的に処理するため、第一回の実施から受験料は小切手によって支払うと指定していたが、使用率が低いため、2009 年度の 12 月試験申込みから、電話やインターネットバンクによる、決済のできる「PPS」（電子マネーの一種）システムを導入した。

表 2 で示すように、必ずしもオンライン申込したからといってオンラインで決済するとは限らないことが分かった。が、全体的みると 8 割を超えるという相当利用率の高いことは明らかである。

表 2 2009 年～2011 年 ウェブ申込の支払い手段の推移（香港）

年度	ウェブ申込 人数	PPS で支払う 人数	比率 (%)	小切手で支払 う人数	比率 (%)
09 年度	12,910	10,458	81.0	2,452	19.0
10 年度第 1 回	2,836	2,319	81.8	517	18.2
10 年度第 2 回	8,903	7,502	84.3	1,401	15.7
11 年度第 1 回	5,037	4,445	88.2	592	11.8
11 年度第 2 回	6,800	5,925	87.1	875	12.9

2.3 試験会場

表 3 は 2011 年度試験が行われた会場である。

例年通り中心となるのが最も大人数が収容可能な九龍灣国際展覽中心である。ただし、実際に利用する会場やその会場で行われる試験のレベルは応募者数によって変更する場合がある。ちなみに、マカオでは 12 月試験しか行われないうこととなっている。

表 3 2011 年度試験会場リスト（香港・マカオ）

	会場名	7 月試験	12 月試験
1	九龍灣国際展貿中心 3/F, Star Hall	×	○ (N1, N4)
2	九龍灣国際展貿中心 6/F, Rotunda 1	○ (N2, N4)	○ (N3, N4)
3	九龍灣国際展貿中心 3/F, Rotunda 2	○ (N2, N5)	○ (N2, N4)
4	九龍灣国際展貿中心 6/F, Rotunda 3	×	○ (N5)
5	九龍灣国際展貿中心 7/F	×	○ (N5)
6	黄棣珊記念中学	○ (N1, N5)	○ (N2, N5)
7	銘賢書院	○ (N3, N4)	○ (N3)
8	惠僑英文中学	×	○ (N1)
9	マカオ大学	×	○ (N1-N5)

2.4 応募者数及び受験者数

表 4 は 2011 年度試験の応募者数及び受験者数のデータである。

7 月及び 12 月試験ともそれぞれ全体的受験率が 80 パーセント以上を超えている。全体的とはいうが、レベルごとの受験率からみると、特定のレベルで受験者数が特に多いというわけでもなく、それぞれ 8 割以上超えているというのが興味深い数字である。

表 4 2011 年度応募者数・受験者数と受験率（香港・マカオ）

	2011 年 7 月試験			2011 年 12 月試験		
	応募者数	受験者数	受験率(%)	応募者数	受験者数	受験率(%)
N1	1,078	939	87.1	1,392	1,174	84.3
N2	1,345	1,181	87.8	1,666	1,456	87.4
N3	1,029	917	89.1	1,456	1,261	86.6
N4	1,303	1,146	88.0	2,118	1,851	87.4
N5	1,282	1,170	91.3	1,920	1,716	89.4
合計	6,037	5,353	88.7	8,552	7,458	87.2

3. 応募者に関するデータ

受験願書より下のように応募者に関するデータが分かった。また、3.4 項から 3.8 項までは独立行政法人国際交流基金により願書に設けられたアンケート調査であり、内容については今後変更が加わる場合があるそうである。

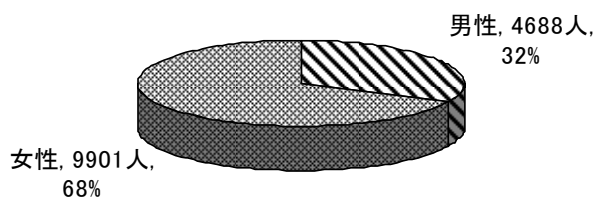
3.1 性別

表 5 は応募者の性別の比率データである。なお、図 1 の円グラフは年間の応募者全体の比率を示している。

表 5 2011 年度 応募者の性別（香港・マカオ）

	2011 年 7 月試験				2011 年 12 月試験			
	男性（人）	比率	女性（人）	比率	男性（人）	比率	女性（人）	比率
N1	394	36.5%	684	63.5%	513	36.9%	879	63.1%
N2	456	33.9%	889	66.1%	570	34.2%	1,096	65.8%
N3	313	30.4%	716	69.6%	454	31.2%	1,002	68.8%
N4	378	29.0%	925	71.0%	639	30.2%	1,479	69.8%
N5	373	29.1%	909	70.9%	598	31.1%	1,322	68.9%
合計	1,914	31.7%	4,123	68.3%	2,774	32.4%	5,778	67.6%

図 1 2011 年度試験応募者性別の比率（香港・マカオ）



3.2 年齢

願書に記入された応募者の生年月日から、次の図 2（7 月試験）と図 3（12 月試験）で示してあるように、それぞれ各レベルにおける応募者の年齢分布が分かった。

特に大きな変化がなく、例年と同じく応募者の多くは 20 代が中心となり、応募者数全体の半分以上占めている。また、年間で応募者の中には 9 歳の最少年者が一人、81 歳の最高年者が一人それぞれ N5 及び N3 に応募したデータもあった。

3.3 母語

表 6 及び表 7 は応募者の母語を示しているものである。

歴史的背景の影響を受けつつあり、広東地方の方言としての広東語を「母語」とする応募者の割合が 9 割以上である。細分せずに中国語（広東語、中国語及び他の方言を含む）を母語とする応募者の人数を見ると、全体で割合がさらに 99 パーセント以上にのぼる。

表 6 2011 年 7 月試験 応募者の母語（香港）

母語	合計	N1	N2	N3	N4	N5
中国語（広東語）	5,856	1,014	1,296	1,006	1,273	1,267
中国語（北京語）	106	38	28	13	19	8
中国語（その他の方言）	18	6	7	2	2	1
英語	42	13	10	5	9	5
フランス語	6	1	3	1	0	1
日本語	4	2	1	1	0	0
韓国・韓国語	2	2	0	0	0	0
スペイン語	1	0	0	1	0	0
ロシア語	1	1	0	0	0	0
その他	1	1	0	0	0	0
（合計）	6,037	1,078	1,345	1,029	1,303	1,282

表 7 2011 年 12 月試験 応募者の母語（香港・マカオ）

母語	合計	N1	N2	N3	N4	N5
中国語（広東語）	8,299	1,303	1,599	1,420	2,095	1,882
中国語（北京語）	141	55	45	17	12	12
中国語（その他の方言）	21	5	7	6	2	1
英語	57	18	8	6	7	18
フランス語	11	3	1	3	0	4
日本語	10	4	4	1	0	1
韓国・韓国語	6	3	1	1	1	0
スペイン語	2	0	0	1	0	1
ロシア語	1	1	0	0	0	0
ドイツ語	1	0	0	1	0	0
タイ語	1	0	1	0	0	0
アラビア語	1	0	0	0	1	0
イタリア語	1	0	0	0	0	1
（合計）	8,552	1,392	1,666	1,456	2,118	1,920

3.4 日本語学習の場

アンケート調査の質問：

あなたに最も当てはまるものを一つ選んで、□に記入してください。

アンケートの結果：

表 8 日本語学習の場

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	現在、小学校（初等教育）で日本語を学んでいる	0.1	0.4	0.0	0.0	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
2	現在、中学校・高校（中等教育）で日本語を学んでいる	1.8	0.6	0.3	0.9	1.3	5.5	1.7	0.5	0.7	1.6	2.5	2.8
3	現在、大学・大学院（高等教育）の主専攻で日本語を学んでいる	5.7	8.2	11.2	6.9	1.7	0.9	4.4	9.1	8.5	4.4	1.7	0.4
4	現在、大学・大学院（高等教育）の主専攻以外で日本語を学んでいる	6.8	5.6	8.5	6.2	7.5	5.7	5.2	4.3	6.7	6.5	5.0	3.6
5	現在、語学学校等のその他の教育機関で日本語を学んでいる	57.2	32.5	49.1	60.9	68.6	72.0	59.2	32.7	49.8	61.0	69.9	73.3
6	現在、1～5の教育機関で日本語を学んでいない	28.4	52.9	30.9	25.1	20.8	15.8	29.5	53.4	34.3	26.4	20.8	19.7

選択比率から見ると全体的で応募者の日本語学習の場として語学学校が半数以上占めている。

3.5 受験目的

アンケート調査の質問：

あなた今回の試験を受ける目的を一つ選んで、□に記入してください。

アンケートの結果：

表 9 受験目的

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	大学や大学院入学に必要（自分の国で）	2.4	2.0	2.0	2.4	1.4	3.9	2.4	1.4	2.6	1.7	2.8	2.8
2	大学や大学院入学に必要（日本で）	2.6	3.8	3.6	2.5	1.6	1.7	2.2	4.0	2.6	2.1	1.4	1.6
3	その他の教育機関での入学や能力証明に必要（自分の国で）	2.0	1.3	1.9	1.3	2.5	2.7	1.7	0.9	1.6	1.6	2.3	1.9

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
4	その他の教育機関での入学や能力証明に必要(日本で)	1.5	1.5	2.2	0.9	1.5	1.0	1.3	1.6	1.7	1.6	1.2	0.5
5	自分の仕事やこれからの就職・昇給・昇進に役立つ(自分の国で)	17.8	27.6	20.6	15.0	14.2	12.7	16.6	25.6	20.9	14.6	12.8	12.2
6	自分の仕事やこれからの就職・昇給・昇進に役立つ(日本で)	1.8	2.9	2.3	1.7	1.2	0.9	1.6	3.1	2.2	0.5	1.0	1.3
7	上の1～6以外で、自分の実力が知りたい	57.6	50.6	54.9	63.5	61.5	57.8	59.9	53.8	58.2	64.6	62.5	59.4
8	その他	14.4	10.3	12.5	12.8	16.1	19.3	14.3	9.7	10.0	13.3	16.0	20.4

「値打ちを増やさねば」というふうに着てられてきた香港人にもかかわらず、受験目的として仕事への有利さを選ぶのではなく、「自分の実力が知りたい」という項目への選択が一番多かったという結果は興味深いである。

3.6 職業

アンケート調査の質問：

あなたの職業について、一つ選んで、□に記入してください。

アンケートの結果：

表 10 職業

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	小学生(初等教育)	0.4	0.6	0.0	0.2	0.2	1.1	0.3	0.1	0.1	0.0	0.1	1.0
2	中学生・高校生(中等教育)	10.4	4.4	4.7	10.5	12.9	18.6	10.1	2.3	5.0	8.9	11.9	18.9
3	大学・大学院生(高等教育)	19.7	20.2	25.8	24.5	17.1	11.7	16.7	19.3	21.8	17.9	13.6	12.6
4	語学学校等のその他の教育機関の学生	3.7	3.2	5.7	3.9	3.8	1.8	3.0	3.4	3.8	2.8	2.5	2.9
5	就業(会社員・公務員・教員・自営等)	57.3	56.9	54.9	54.4	60.2	59.6	62.0	62.1	62.0	62.0	64.9	59.0
6	その他	8.5	14.7	8.9	6.5	5.8	7.2	7.9	12.8	7.3	8.4	7.0	5.6

選択比率から各レベルとも半数以上の応募者が社会人であることが分かった。

3.6.1 職業の種類

アンケート調査の質問：

職業で5を選んだ人に聞きます。

あなたに最も当てはまるものを一つ選んで、□に記入してください。

アンケートの結果：

表 11 職業の種類

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	教育機関の日本語教員として仕事で日本語を使っている	0.4	1.1	0.3	0.4	0.3	0.0	0.4	1.6	0.1	0.2	0.0	0.3
2	公的機関に勤務して仕事で日本語を使っている	0.6	1.0	0.4	0.4	0.5	0.7	0.5	0.6	0.8	0.3	0.7	0.3
3	製造業、建設業、情報通信業などの企業に勤務して仕事で日本語を使っている	7.2	13.1	8.9	4.6	5.2	4.6	7.7	16.2	8.7	6.1	5.1	4.7
4	サービス業、観光業、接客業などの仕事で日本語を使っている	9.5	13.2	8.9	7.5	8.8	9.0	11.0	14.8	11.0	9.5	9.2	11.4
5	1～4以外の職業で仕事で日本語を使っている	7.3	12.1	7.7	6.3	5.4	5.8	8.2	14.5	10.0	7.2	5.4	6.2
6	仕事で日本語は使わない	75.0	59.5	73.8	80.8	79.8	79.9	72.2	52.3	69.4	76.7	79.6	77.1

N1のレベルになると、応募者の職場での日本語の使用率が3～4割となった結果が見られたが、程度の高い日本語教育にもかかわらず、仕事への応用率が低いということに気になるのである。

3.7 日本語との接触媒体（メディア）

アンケート調査の質問：

あなたは教室の外で何を通じて日本語を聞いたり読んだりしますか。

当てはまるものを選んで、○で囲んでください。

アンケートの結果：

表 12 日本語との接触媒体（メディア）

アンケートの選択	答えの比率 %（7月試験）						答えの比率 %（12月試験）					
	全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1 ニュース・ドキュメンタリー	31.3	47.1	37.8	28.3	25.2	20.0	23.0	40.1	28.0	21.5	17.4	13.5
2 ドラマ（アニメを除く）	76.9	73.8	79.1	78.9	78.6	73.9	77.6	77.4	80.4	79.6	78.2	73.0
3 アニメ	53.3	52.9	52.7	56.7	54.2	50.7	54.1	52.5	56.8	56.6	52.3	53.1
4 新聞・雑誌（漫画を除く）	46.0	54.6	51.3	45.1	42.7	37.1	42.4	52.6	46.9	43.8	38.1	34.6
5 本（教科書を除く）	31.2	47.7	37.6	28.8	24.6	19.4	30.1	48.3	37.6	31.3	22.6	17.8
6 漫画	35.5	41.9	35.8	35.4	35.5	30.0	35.9	40.5	40.1	35.6	33.6	31.7
7 ヴェブサイトの記事	55.6	65.1	60.8	57.8	50.5	45.3	53.2	65.2	59.2	53.2	48.8	44.1
8 その他	18.8	22.4	19.4	18.9	15.5	18.6	18.4	22.8	18.6	16.3	17.1	18.0
9 教室外で日本語にふれて、聞いたり読んだりしない	5.2	3.7	4.3	5.0	5.1	7.5	4.8	3.7	3.2	4.5	5.6	6.5

いまだに人気不衰えないう日本のドラマが最も多く接する媒体の一つであり、全体で約 8 割に近づいている。「アニメ」や「ウェブサイトの記事」への選択も 50 パーセントを超えている。日本文化のケシンだといっても過言ではない「漫画」項目はやや少なめの 3 割弱であった。

3.8 日本語を使用する相手

アンケート調査の質問：

日常的に、誰に対して日本語を使いますか。

当てはまるものを選んで、○で囲んでください。いくつ選んでもいいです。

アンケートの結果：

表 13 日本語を使用する相手

先生

アンケートの選択	答えの比率 %（7月試験）						答えの比率 %（12月試験）					
	全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1 先生と話す	57.9	51.0	64.2	60.3	58.7	54.1	55.4	50.2	59.4	56.9	56.5	53.2
2 先生の話聞く	58.6	44.6	59.6	63.2	61.6	62.6	57.0	43.8	58.0	60.9	61.5	57.7
3 先生が書いたものを読む	28.3	26.5	30.6	30.0	26.5	28.0	28.9	24.5	31.8	30.5	28.8	28.5
4 先生に対して文章を書く	30.3	29.8	34.9	32.6	27.6	26.9	29.2	26.5	34.0	33.2	27.6	25.6
5 どれにも当てはまらない	28.6	42.4	25.9	25.1	25.4	25.8	31.2	43.6	30.7	27.5	26.6	30.5

劉 礪志：2011 年度香港・マカオ日本語能力試験実施報告

友人

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	友人と話す	46.1	58.3	50.9	45.5	41.1	36.5	43.4	55.7	49.0	41.5	38.6	36.5
2	友人の話を聞く	32.1	40.7	36.0	33.7	28.2	23.6	29.8	41.5	35.2	28.2	24.8	23.5
3	友人が書いたものを読む	18.5	27.4	21.5	17.8	14.9	11.9	17.6	27.4	21.6	18.5	13.1	11.3
4	友人に対して文章を書く	18.9	29.1	22.4	18.6	14.6	11.2	18.3	29.0	23.7	17.5	13.9	11.4
5	どれにも当てはまらない	43.4	32.7	38.3	42.8	48.1	53.4	45.7	33.8	39.0	46.1	51.2	53.8

家族

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	家族と話す	7.0	9.6	6.3	6.4	5.3	7.6	6.5	8.6	6.2	6.0	5.4	6.7
2	家族の話を聞く	3.5	5.2	3.4	2.4	2.6	4.1	3.7	6.0	3.2	3.6	2.8	3.6
3	家族が書いたものを読む	1.2	2.3	1.6	0.6	0.3	1.1	1.3	2.6	1.0	0.9	0.7	1.5
4	家族に対して文章を書く	1.5	2.1	1.6	1.2	1.3	1.2	1.2	2.2	0.9	0.7	1.2	1.2
5	どれにも当てはまらない	90.8	88.2	90.9	92.0	93.1	89.6	91.8	89.2	92.4	92.2	93.0	91.4

上司

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	上司と話す	10.0	23.7	11.3	5.7	4.5	6.0	8.8	22.6	10.4	6.0	4.5	4.5
2	上司の話を聞く	8.8	19.2	8.9	6.4	5.2	5.6	8.3	20.3	9.5	6.3	4.3	4.6
3	上司が書いたものを読む	5.2	14.3	5.4	2.9	2.4	2.1	4.9	14.2	5.3	3.2	2.1	2.0
4	上司に対して文章を書く	4.2	13.7	3.9	1.7	1.2	1.8	3.9	12.4	4.5	2.3	1.4	1.0
5	どれにも当てはまらない	86.5	72.4	84.6	90.7	92.0	91.1	88.2	74.1	86.1	90.0	93.5	92.7

同僚

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	同僚と話す	12.4	24.9	13.2	7.6	8.5	8.7	11.3	22.2	12.7	8.9	8.5	7.2
2	同僚の話を聞く	9.5	18.6	9.2	6.7	6.6	7.4	9.0	18.2	10.4	6.8	5.9	6.2
3	同僚が書いたものを読む	5.1	12.8	5.5	3.0	3.1	2.0	5.2	13.6	5.6	3.8	2.6	2.6
4	同僚に対して文章を書く	4.4	12.4	4.9	2.2	1.8	1.6	4.4	12.9	5.0	2.7	2.0	1.6
5	どれにも当てはまらない	84.3	72.4	82.6	89.1	88.4	87.8	85.3	73.9	83.6	87.6	89.0	89.2

顧客

	アンケートの選択	答えの比率 % (7月試験)						答えの比率 % (12月試験)					
		全体	N1	N2	N3	N4	N5	全体	N1	N2	N3	N4	N5
1	顧客と話す	14.8	28.0	15.8	11.6	9.9	10.4	15.0	26.7	16.8	12.5	11.1	11.0
2	顧客の話聞く	11.5	20.9	11.2	8.9	8.5	9.0	12.2	22.4	14.3	9.4	8.4	9.3
3	顧客が書いたものを読む	5.5	13.1	5.9	3.9	2.9	2.7	5.5	14.7	5.9	3.9	2.9	2.6
4	顧客に対して文章を書く	4.5	12.2	5.4	2.6	1.5	1.8	4.5	13.3	4.9	3.0	2.1	1.7
5	どれにも当てはまらない	81.1	68.5	79.6	84.3	86.7	84.9	81.4	69.3	79.1	83.7	85.9	85.4

答えの比率から分かったことは全体的で、日本語を使用する相手として「先生」が7割弱で、「友人」が約6割、「上司」とともに「同僚」も2割に満たない。そして「家族」が1割だったというデータも分かった。その中、N1からN5の応募者全体一番多く選んだのは「家族と話す」で、6から7パーセントになっている。また、「家族に対して文章を書く」項目にも1パーセント以上という数字が出た。さまざまな状況による結果だとは思いますが、実に面白いことを反映しているのである。

4. まとめ

偶然にも2011年度の応募者数が前年度の2010年試験とほぼ同じである。数字が多ければ喜ばしいことだが、それとは正反対の2年連続の5千人近くの激減。最初に述べたように応募者数の変化はさまざまな理由から変わってくるものである。況して、この2、3年間、自然災害や他の国の世界的への進出による影響、そして本試験そのものの新たに改定することなど、諸種の影響から今日のような状況になったかも知れない。

応募者数はともかく、より多くの人々が日本語そして日本そのものに関心を持たせることが、引き続き社会貢献をはかる香港日本語教育研究会の今後の使命である。